

「福祉の現場の声とロボット技術」別冊について

電子技術総合研究所 小野栄一

この別冊は、福祉の現場の方々や福祉にご関心のある方々とロボティクスの観点から貢献したいと願っているエンジニアを念頭に作りました。福祉の現場の方々やご関心のある多くの方々にロボット技術の一端を知っていただくとともに、ロボット技術やエンジニアがこれから福祉の世界に関わっていくときに誤った方向に陥らないように、参考となるように、気さくに思うことを書いていただきました。

寄稿していただいた皆さんは、福祉の現場でご活躍されている方々やロボット研究者、教育学者、動物学者で、立場も様々です。皆さん、これからの社会を支え、より良くするために、ご協力して下さいました。皆さんは、その道で経験豊富な方々です。そのため文章中の何気ない一言でも、試行錯誤や貴重な経験に基づくものであったり、示唆を含んでいたりとしたいと思います。

どこから読んでいただいてもかまいません。人を扱う技術開発は、そう容易なことではありません。多くの人の協力が必要です。異なる観点の方々が集まり、気さくに話すことで、ブレイクスルーが起きる可能性が高くなります。この別冊から少しでも福祉の現場とエンジニア、ユーザーの方々が知り合い、情報交流するきっかけができたり、視野が広がることを願います。

そして、誰もが生き易い、住み易い社会を支えるよう技術が活かされることを願います。

この無料一般公開セッションや別冊は、本学術講演会委員長の増田良介先生および東海大学学内委員会の皆様、ボランティア皆様の極めて多大なご尽力により実現できることになりました。そのため、短期間に企画案作成と開催準備が同時進行していくという形で進み、最終的に公開セッションの形になりました。したがって、試行錯誤の結果の面もあり、必ずしも最適な形になっていませんが、ご了解下さい。

福祉の現場の方々には施設や病院にお勤めのため、平日に参加が難しい方も多いため、別冊の3章に寄稿していただくという形でご協力願いました。また、あわせて多くのご関心ある方々に寄稿していただきました。この公開セッションの内容も畠山卓朗さん、市川洸さんを初め、福祉現場の方々からの多くのご示唆をいただきました。

公開セッションにご発表して頂く方々とせわしい中を短期間の締め切りにも関わらず寄稿して下さった方々に深く感謝するとともに、改めて多くの皆様の情熱に敬意を表します。

